

ANNUAL REPORT

2019年度 活動報告書



Rural Innovation Lab

KOBE UNIVERSITY
TAMBASASAYAMA

神戸大学・丹波篠山市
農村イノベーションラボ



TAMBASASAYAMA FIELDSTATION
丹波篠山フィールドステーション

<https://sasayamalab.jp>



農村の未来を創る「地」と「知」の拠点

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ+丹波篠山フィールドステーションは、農村地域の課題解決と発展のため、現場発のイノベーション、地域に根ざした教育と研究、地域の人材育成に取り組む拠点です。2007年に締結された神戸大学と丹波篠山市との地域連携協定のもと、神戸大学大学院農学研究科地域連携センターが中心となり進めています。

篠山には、戦後、神戸大学農学部の前身である兵庫農科大学が設立され、1966年の国立移管までの間、多くの学生や研究者が学び、研究してきました。その、当時を知る人々が少なくなる中、改めて関係性を再構築し、「地」と「知」の発展のため、連携して活動をおこなうこととしました。

その活動の一環として、丹波篠山フィールドステーションの開設、大学生が篠山で農家に学ぶ実践農業入門や専門知識を活かし現場で実践する実践農業などの「食農コープ教育プログラム」に取り組むとともに、さまざまな共同研究やプロジェクトをすすめてきました。2014年からは、地域人材育成の一つとして、神戸大学生が篠山に住みながら自身の専門知を活かし地域の課題解決を目指す「半学半域」型の地域おこし協力隊制度を導入しました。現在では起業を目指す社会人にも門戸を開き、地域資源を活用して受入地域の課題解決を目指す「起業支援型」にも展開しています。また、「食農コープ教育プログラム」をきっかけとして、学生が自主的に学生団体を結成し、地域の課題解決や地域住民との交流活動をおこなっており、篠山で活動する学生団体のメンバーは計200人ほどとなっています。そうした活動蓄積の上での新たな取り組みが、2016年にJR篠山口駅構内に開設した神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボです。丹波篠山市の地方創生戦略の一つの核として、若者らの地域に根ざしたビジネスビルディング、地域でのチャレンジの支援をおこなうとともに、新しい農村社会像を描くような、価値創造的で実践的な研究に取り組んでいきます。

地域連携を支える3つの取り組み

1 地域創造研究

農村地域の課題解決を目指し、新しい価値を生み出すような研究をおこないます。また、自主共同研究の実施、および研究者等が丹波篠山市で実施する調査研究の支援を通じて、現場とともに社会実験を進め、他地域へ展開可能な地域課題の解決および地域のより良い発展を目指します。



篠山で実践されている研究の多くは学会だけでなく、市民に向けても広く発表しています。

2 地域人材育成

篠山や農山村地域を舞台に活躍する学生や若手実践者など、地域発展と課題解決を目指したイノベーターたちの学びや挑戦、成長をサポートします。「食農コープ教育プログラム(大学生向け)」や「篠山イノベーターズスクール(社会人向け)」など、地域に根ざした実践的な学習プログラムを企画支援します。



大学生から社会人まで農村を舞台にした多様な人材育成プログラムを実践しています。

3 活動・情報支援

さまざまな立場の人々のネットワークづくりを支援し、地域情報の共有と創造を進めます。各種ワークショップやセミナーなどを開催するとともに、地域づくり活動、政策についてのアドバイスやサポートもおこないます。



各種の成果発表会やセミナーなどを通じて大学の取り組みや事業を公開しています。



プロジェクトスタッフ 大学研究者をはじめ、若手研究者や実践家など分野を問わず多様なスタッフが運営しています



田中丸 治哉
リーダー
神戸大学大学院
農学研究科 教授



中塚 雅也
ディレクター
神戸大学大学院
農学研究科 准教授



木原 奈穂子
神戸大学大学院農学研究科
特命助教



谷川 智穂
プログラムマネージャー(LAB)
一般社団法人EKILAB.



河川 英樹
コーディネーター(LAB)
一般社団法人EKILAB.



大井 弘子
事務員(LAB)
一般社団法人EKILAB.



眞鍋 邦大
コーディネーター
(地域おこし協力隊)
神戸大学大学院農学研究科



橋田 薫
コーディネーター
(地域おこし協力隊)
神戸大学大学院農学研究科



森田 忠
コーディネーター
(地域おこし協力隊)
神戸大学大学院農学研究科



瀬戸 大喜
コーディネーター
(地域おこし協力隊)
神戸大学大学院農学研究科

Rural Innovation Lab

神戸大学・丹波篠山市
農村イノベーションラボ

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ
〒669-2212 兵庫県丹波篠山市大沢165-3
Phone / Fax. 079-506-6628
<https://sasayamalab.jp>
info@sasayamalab.jp



丹波篠山フィールドステーション
〒669-2324 兵庫県丹波篠山市東新町4-5
Phone / Fax. 079-506-2366
<https://fieldstation.sasayamalab.jp>
info@sasayamalab.jp



まち・ひと・しごとの創造的な循環を生み出す

1 地域創造研究



里山植生の把握と森林資源の利用
黒田 慶子 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 里山植生, 森林保護, ナラ枯れ, バイオマス



地域固有性の発現と農村発展モデルの確立
中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD アクターネットワーク, 農村計画, 環境保全型農業, 地域連携



野生動物から窺う自然環境アセスメント
杉田 既佑 (神戸大学大学院農学研究科学生)
星 信彦 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 環境ホルモン, ネオニコチノイド



産後女性に対する腰痛予防教室
小野 玲 (神戸大学大学院保健学研究科准教授)
堀邊 佳奈 (神戸大学大学院保健学研究科学生)
KEYWORD 腰痛, 骨盤痛, ストレッチ, トレーニング, 育児動作アドバイス



丹波篠山市内の圃場毎営農状況の自動判別法の開発
長野 宇規 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD 農地土地利用, リモートセンシング, 耕作放棄, 地域計画



地域ブランドの発展にかかる農産物認証制度への意識研究
木原 奈穂子 (神戸大学大学院農学研究科助教)
KEYWORD 農産物認証制度, 生産体制, 地域ブランド, 知財マネジメント



地域在来の小規模醤油製造業の継承戦略
津田 有梨花 (神戸大学大学院農学研究科学生)
中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 醤油製造, 持続的経営, 事業継承, 地域資源



兵庫県丹波篠山市における市史編纂事業のための研究と検討
奥村 弘 (神戸大学大学院人文科学研究科教授)
松本 充弘 (人文科学研究科准教授)
KEYWORD 丹波篠山市史, 地域社会, 地域歴史資料



**新しい特産品づくりに関する研究
香りヤマナシ栽培の可能性**
片山 寛則 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD イワテヤマナシ



広域農協組織の設立が地域農業に与える影響
木原 奈穂子 (神戸大学大学院農学研究科助教)
KEYWORD 畦畔管理, 集落営農, 農地集積, 中間組織



ジビエ利用拡大にむけた狩猟者意識の分析
池下 和輝 (神戸大学農学部学生)
中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 獣害, 食用利用, 食肉加工, 狩猟機械, 流通



腸内細菌を用いたニホンザルの農地依存度の把握と加香レベルの判定手法の確立
清野 未恵子 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)
KEYWORD 獣害対策, 検診, 都市農村交流イベント, 環境創造型農業



駆除した侵略的外来生物の活用方法の研究
鈴木 武志 (神戸大学大学院農学研究科助教)
KEYWORD 侵略的外来種, 外来種駆除, 外来種の利活用, 有機肥料化



IoTを活用した生活交通システムの協創的開発
衛藤 彬史 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD 公共交通, 生活交通, 地域ガバナンス



産後のマイナートラブルの縦断調査
小野 玲 (神戸大学大学院保健学研究科准教授)
堀邊 佳奈 (神戸大学大学院保健学研究科学生)
KEYWORD 産後, マイナートラブル, 腰痛, 骨盤痛, 抑うつ, 原もれ



**地域の組織的な獣害対策に高校生が果たす役割に関する研究
一兵庫県立篠山高等学校における放任豚の増殖を事例として**
工藤 大智 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科学生)
清野 未恵子 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)
KEYWORD ワイルドライフマネジメント, 獣害対策, 生態地管理, 豚, 増殖

2 地域人材育成

食農コープ教育プログラム

実践農学入門 (履修者: 47名)

地元農家に師事し、農作物の栽培やむら仕事を体験しながら農業や農村生活に関する理解を深めます(6回)。また、体験から得た知識をもとに、地域の課題解決に向けた提案を考えるためのワークショップを含む校内学習(3回)や、農村体験活動やボランティア活動への参加(1回)を設定しています。2019年度は、農学部や国際人間科学部などの学生47名が、城北地区で農業を実践されている方々(16戸)のもとで、黒大豆の農作業を実施しました。



黒大豆の栽培
受入農家さんに教わりながら、農作物(黒大豆)の様々な栽培作業(移植、中耕、除草、収穫、選別等)を年間を通じて体験しました。



ワークショップ(校内学習)
農業・農村体験によって得た経験や知見をもとにワークショップを2度実施し、最終的に地域をよりよくするアイデアやプロジェクトを提案しました。



農村ボランティア
グループごとに農作業のお手伝いや地域行事に参加する経験を通して、農業農村に関する理解を深めました。

fundacoop | <https://kobe-face.jp>

実践農学 (履修者: 17名)

調査やプロジェクトに実際に参加し、農村地域における現状課題を調査・分析するとともに、課題解決に寄与する取り組みや施策の企画立案から検証実験までのプロセスを理解することを目的とします。2019年度は、里山の樹木調査をする森づくりグループと村営世代会議、農の匠アガを出入先として、プロジェクトごとに企画立案や施策を実施するインターンシップ型グループが演習をおこないました。



実践を通しての学習プログラム

CBL

篠山を舞台にした地域プロジェクト実践を通じて、地域ビジネス実践者に、その技術やノウハウ、理念などを学ぶ学習(Community Based Learning)です。限定8名の少人数制で、スクール生それぞれのビジネスモデルのヒントになるプログラムを設計しています。

強みを活かす農家経営 | サステナブル ツールズ of Japan



売れる加工食品の開発 | ITサービスで地域発イノベーション



「株式会社ワールド・ワン寄付科目」

セミナー

大学教員や実務家による講義形式のセミナーです。対話と事例を重視しながら、地域でビジネスや活動をおこなう上で必要とされる基礎的な理論や考え方を学ぶことができます。2019年現在、全6つのセミナーが開講され、スクール生は、各自のテーマや興味関心に合わせて3つのセミナーを選択・受講し、ビジネス創出に必要な基礎知識や手法を学ぶことができます。

 食と農の流通とマーケティング	 ビジネスモデルデザイン
 農村イノベーション	 起業のためのファイナンス
 地域の成り立ちと構造	 コピーライティングとデザイン

<https://school.sasayamab.jp>

地域おこし協力隊

丹波篠山市地域おこし協力隊は、現役の学生や大学院生、大学等研究員が協力隊員となって、学業と並行して調査研究をおこないながら、受入地域の活動を支援する「半学半地域型」と、地域資源を活用して起業を目指す人が協力隊員となり、成果を地域に還元する事業をおこないながら、受入地域の活動を支援する「起業支援型」の2つの活動形態を設けています。学生の挑戦する力と起業、研究といったそれぞれのアプローチから地域課題の解決を目指すとともに、挑戦的な事業を展開していきます。

<td><td><td><td><h2>3 活動・情報支援</h2></td></td></td></td>	<td><td><td><h2>3 活動・情報支援</h2></td></td></td>	<td><td><h2>3 活動・情報支援</h2></td></td>	<td><h2>3 活動・情報支援</h2></td>	<h2>3 活動・情報支援</h2>
--	---	--------------------------------------	-----------------------------	--------------------

セミナー・イベント開催
70件

例年通り、丹波篠山市と神戸大学との連携の成果発表と今後の展開を考える場として「篠山市・神戸大学地域連携フォーラム」を開催しました。このほか、神戸大学文学部の古文書合宿や留学生センターの日本文化見学旅行といった大学内のイベントの受け入れや、神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボによるラボオープントークやRLN、スクール関係のセミナーを開催しました。

視察件数
14件

ラボ・フィールドステーションでおこなう事業全体に対して、大阪市立大学や和歌山大学、京都大学といった大学関係からの視察の他、丹波篠山市内の団体、市外の行政団体等の視察を受けました。大学との連携事業に関する問い合わせの他、地域おこし協力隊の活動実態、篠山イノベーションスクール事業の展開状況等に関する問い合わせも多く、地域での起業育成や拠点整備、移住・定住への取り組みなどへの関心の高さが増えました。

相談件数
140件

神戸大学内外での施設利用や連携事業に対する相談の機会が増えたり、丹波篠山市からの施策検討に対する相談が増え、連携事業に関連する相談件数は微増でした。その一方で、地域からの活動相談は微減となり、全体としては微減となりました。神戸大学主催・協力イベントや丹波篠山市主催のイベントに合わせて、連携事業の紹介をさせていただく機会が増えており、地域の方々に活動が認知されるようになっていることが伺えました。

施設利用件数
257件

神戸大学内の連携による施設利用が例年通りあったことに加え、学内での連携強化による施設利用が増えました。また、市役所関連での施設利用が増えました。この一方で、企画イベントを実施する地域の方々やスクール生の団体活動が成熟し、地域ラボをはじめとする他施設が利用されるようになったことや、施設外に向いて打合せ等をおこなう機会が増加したことにより、施設利用件数は微減しました。

学生活動団体

毎年、丹波篠山市内の異なる地区で実施されている実践農学入門や実践農学に参加した学生らが自主的に学生団体を結成しています。活動目標や取り組み内容は様々で、それぞれが特色やこだわりを持って地域と連携した活動をおこなっています。楽しみながらも、継続的に地域のさまざまな課題解決にチャレンジしています。

 にしき恋 西紀南地区 2013年結成。地域密着を理念に、毎週末農業ボランティアや黒大豆の栽培、地域交流等をおこなっています。	 おくものがり 大寺地区 2017年結成。廃校になった旧大寺小学校を拠点に、子どもたちの合宿やお祭りへの参加を通して大寺地区の地域活性化を目標に活動しています。	 AGLOC 岡野地区 2016年結成。地域と世界を繋ぐをテーマに、留学生らとともに月1回の農業ボランティアや地域活動をおこなっています。	 学生活動団体連絡協議会(ささ連) 丹波篠山市 各学生活動団体が集まり、丹波篠山市全域の活性化を目指して、活動内容の共有や、地域の枠を超えた連携を図っています。
---	--	---	--